

富山県感染症発生動向速報

(2026 年第 29 週分・7 月 13 日～7 月 19 日)

■今週の主な動向

○手足口病の報告数は先週からさらに減少しましたが、警報開始基準を超えています。

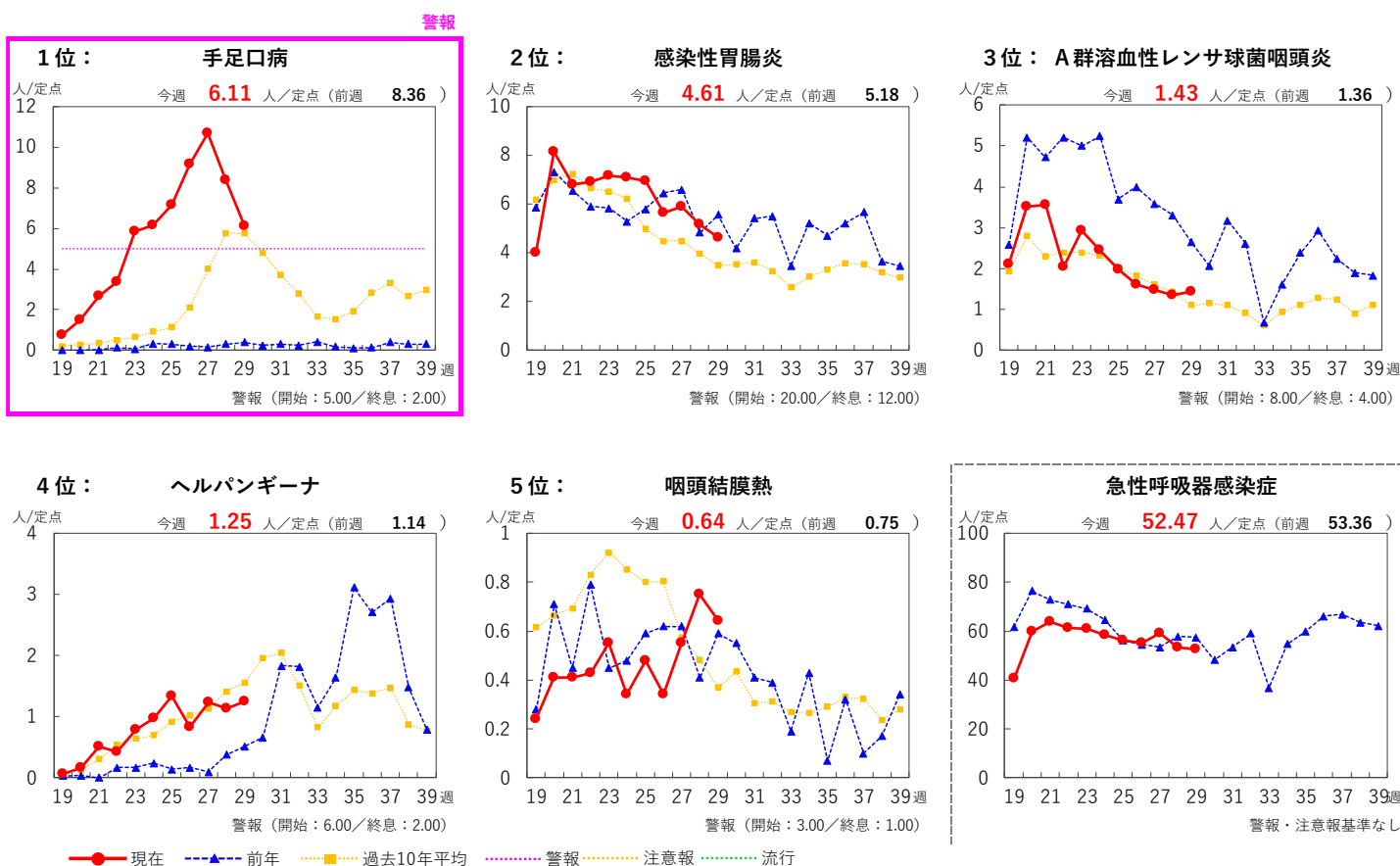
患者は 2 歳以下の乳幼児が中心です。特徴的な症状は、手のひらや足の裏、口の中の水疱を伴う発疹です。おむつ交換やトイレの後、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。(今週のインフォメーション参照)

○ヘルパンギーナの報告数は第 20～25 週に増加した後、横ばいで推移しています。

患者の年齢は 1 歳が最も多く、5 歳以下が患者の 9 割を占めています。特徴的な症状は、突然の高熱、口腔内の水疱、のどの痛みです。例年夏季に増える季節性があり、今後の動向に注意が必要です。(第 26 週インフォメーション参照)

■定点報告の感染症

今週の富山県内上位 5 疾患 + 急性呼吸器感染症 (第 29 週・7/13～7/19)

厚生センター（保健所）管内別、直近の推移: <https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/#a-6>

■全数報告の感染症

- 二類感染症 結核 1 件 (20 歳代、女性)
- 三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 件 (20 歳代、女性、O 型不明、VT1)
- 四類感染症 E 型肝炎 1 件 (80 歳代、男性)
- 五類感染症 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 件 (第 28 週診断分: 20 歳代、男性、G 群)
- 梅毒 3 件 (①第 27 週診断分: 40 歳代、男性、早期顕症梅毒Ⅰ期
②第 28 週診断分: 50 歳代、男性、早期顕症梅毒Ⅱ期
③50 歳代、男性、早期顕症梅毒Ⅰ期)



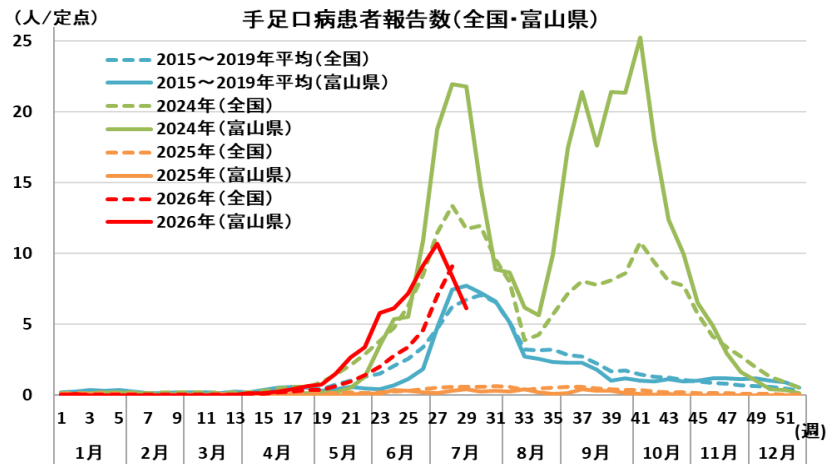


全国で患者数増加中！ 気を付けよう手足口病

《 インフォメーション 》

●手足口病

手足口病は、一般に夏季に報告数が増加し、例年 7 月下旬頃（第 28～30 週）に流行のピークを迎えることが多いウイルス感染症です。2024 年には全国的に大きな二峰性の流行がみられた一方、2025 年には明らかな流行はみられませんでした。2026 年は第 14 週（3/30～4/5）から全国的に増加しています（図赤点線）。富山県でも 4 月中旬頃



旬頃から報告数が増加しはじめ、第 23 週（6/1～6/7）に警報レベル開始基準値の 5.0 人/定点を超えました。その後、第 27 週をピークに減少し第 29 週（7/13～7/19）には 6.11 人/定点となりました。しかし、まだ報告数は多いレベルにあり、引き続き注意が必要です（図赤実線）。

手足口病は、コクサッキーウイルス（CA6、CA16、CA10）やエンテロウイルス（EV71）など複数のウイルスが原因となる感染症です。そのため、一度罹患して免疫ができていても、再度感染して発症する可能性があります。患者は 2 歳以下の乳幼児が中心ですが、大人が感染することもあります。特徴的な症状として、手のひらや足の裏、口の中などに水疱を伴った発疹がみられます。また、発熱やのどの痛み、食欲不振などを伴うことがあります。多くは軽症で、発疹は 3～7 日で消失します。一方で稀に、幼児を中心に髄膜炎、脳炎、急性弛緩性麻痺などの神経系合併症を起こすことがあります。急な高熱、おう吐、痙攣（けいれん）、意識障害などの症状が現れた際は、速やかに医療機関を受診してください。なお、現時点で手足口病に対する有効なワクチンや抗ウイルス薬はありません。手足口病にかかった場合は、経過観察を十分に行い合併症に注意しましょう。

感染経路は、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスによる飛沫感染や、便中に排出されたウイルスが手などを介して口から入る糞口感染、水疱内容物からの接触感染です。症状が消失した後も、2～4 週間は便中にウイルスが排出されることがあります。また、感染しても発症しないままウイルスを排出している場合もあります。日頃から基本的な感染対策を徹底し、次のことに注意して感染予防を行いましょう。

- おむつ交換やトイレの後、調理や食事の前には石鹸で手を洗う。
- 保育所・幼稚園などの集団生活では、タオルの共用を避ける。
- タオル等の消毒には、アルコールは効きにくいので、希釈した塩素系漂白剤や熱湯を用いる。



○感染症発生動向調査報告状況（2026年第29週 2026年7月13日～2026年7月19日）

分類		疾患	今週報告分（第29週）						累積報告数（2026年第1週（2025年12月29日）～）					
			新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
全数把握	二類感染症	結核				1		1	4	2	13	7	29	55
		（再掲）結核：無症状病原体保有者を除く							4	1	5	6	19	35
	三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症			1			1	2		6		2	10
	四類感染症	E型肝炎					1	1			1		1	2
		デング熱											1	1
		マラリア											2	2
		レジオネラ症							1	2	6	1	10	20
	五類感染症	急性脳炎							1				1	2
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症									3	1	6	10
		後天性免疫不全症候群（H I V感染症を含む）											1	1
		侵襲性インフルエンザ菌感染症									2		4	6
		侵襲性肺炎球菌感染症							2		7	2	5	16
		水痘（入院例）							1	1	1		3	6
		多剤耐性緑膿菌感染症											1	1
		梅毒					1	1	3	2	9		13	27
		破傷風											1	1
		百日咳							1				7	8
		麻しん									4		4	8
定点把握（上段：報告数、下段：定点医療機関当たりの報告数）	急性呼吸器感染症（ARI）定点（47定点）	急性呼吸器感染症（※1）	196 28.00	236 47.20	839 64.54	207 29.57	988 65.87	2,466 52.47	8,821	8,070	30,385	8,484	38,546	94,306
		インフルエンザ					3 0.20	3 0.06	1,443	1,211	3,348	1,431	4,693	12,126
		COVID-19		1 0.20	11 0.85	1 0.14		13 0.28	275	146	305	155	525	1,406
	小児科定点（28定点）	R Sウイルス感染症			9		1	10	29	11	150	28	109	327
					1.13		0.11	0.36						
		咽頭結膜熱			17		1	18	32	23	229	1	77	362
					2.13		0.11	0.64						
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4 1.00	2 0.67	18 2.25		16 1.78	40 1.43	150	197	1,376	222	1,284	3,229
			12 3.00	17 5.67	15 1.88	6 1.50	79 8.78	129 4.61	719	622	1,110	284	3,615	6,350
		感染性胃腸炎												
		水痘							3	17	40	9	101	170
		手足口病	4 1.00	23 7.67	31 3.88	7 1.75	106 11.78	171 6.11	27	140	650	95	910	1,822
		伝染性紅斑							8	3	26	9	13	59
		突発性発しん			3 0.38	2 0.50	7 0.78	12 0.43	6	20	89	24	100	239
		ヘルパンギーナ		10 3.33	3 0.38		22 2.44	35 1.25	16	44	62	14	133	269
		流行性耳下腺炎							3		4	4	7	18
	眼科定点（7定点）	流行性角結膜炎			3 1.50			3 0.43	9	2	13	1		25
	基幹定点（5定点）	細菌性髄膜炎											1	1
		無菌性髄膜炎							2					2
		マイコプラズマ肺炎				1 1.00		1 0.20	9		3	4	5	21
		クラミジア肺炎										2		2
		感染性胃腸炎（ロタウイルス）									1	1		2
	入院サーベイランス（5定点）	インフルエンザによる入院患者（※2）							55	41	49	40	102	287
		COVID-19による入院患者		1				1	18	17	7	11	58	111

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

※1 急性呼吸器感染症は2025年第15週（4/7～）より開始しました。（参考：<https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/topics/ari/>）

※2 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、2025年第36週（9/1～）の集計です。